

科目名 日常生活援助技術Ⅱ 時間割表記名 日常生活援助技術Ⅱ (食)(清潔)(嚥法)		配当時期 1年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間(16回)	講義担当者 隈部 直子 高木雅弘 筒井 雅子 (実務経験のある教員)
事前学習内容 関連する看護形態学、基礎看護技術論、日常生活援助技術Ⅰの学習内容を復習して臨む。 技術演習前は、テキストと動画を活用し、技術の根拠を含めた手順をレポートにまとめる。			
授業目標 1. 人間にとっての食の意義を理解したうえで、食に関わる援助技術が実践できる。 2. 清潔援助の効果と呼吸・循環器など全身への影響を理解したうえで、その人の状態に合わせた援助方法を選択し、清潔・衣生活の援助が実践できる。 3. 嚥法の目的・種類と嚥法が身体に及ぼす影響を理解し、嚥法の援助が実践できる。			
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	食事援助の基礎知識 1)食事の意義 2)食事援助が必要な対象の理解 3)食行動のアセスメント 4)栄養状態のアセスメント(低栄養)	講義 演習	テキスト①②資料
2	食事の援助 1)療養生活における食事の種類と形態 2)食事介助の基本 3)摂食・嚥下機能を考慮した食事の援助 4)対象に応じた援助 (1)食欲不振 (2)視覚障害 (3)片麻痺	講義	テキスト①②資料
3	食事介助の実際 1)自力で食事摂取ができない人の食事介助 (1)環境整備 (2)セッティング (3)摂食・嚥下機能を考慮した介助 (4)患者への配慮	演習	テキスト①②資料

4	清潔の援助の基礎知識	講義	テキスト①②資料
5	1)人間の基本的欲求としての清潔 2)生活習慣としての清潔 3)対象に応じた清潔援助の選択と留意点	グループ学習	
6	衣生活の援助に必要な基礎知識 1)衣服を用いることの意義 2)熱産生と熱放散 3)被服気候 4)衣生活に関するニーズのアセスメント 5)援助の実際 (1)病衣の選び方 (2)病衣・寝衣の交換	講義	テキスト①②資料
7	臥床患者の寝衣交換の実際 1)寝衣交換の目的 2)寝衣交換の手順 3)寝衣交換時の留意点	演習	テキスト①②資料
8	臥床患者の全身清拭の実際	演習	テキスト①②資料
9	1)全身清拭の手順 2)タオルの使い方 3)拭き方 4)保温と羞恥心への配慮 5)清拭車の使用方法・使用上の注意点		* 9 回目 45 分
10	臥床患者の洗髪の実際	演習	テキスト①②資料
11	1)洗髪の手順 2)方法に適したポジショニング 3)頭皮の洗い方 4)保温と配慮 5)洗髪車・ケリーパッド・洗髪台の使用方法・使用上の注意点		
12	臥床患者の足浴の実際 1)足浴の手順 2)足浴に適したポジショニング 3)保温と配慮	演習 ピアティーチング	テキスト①②資料
13	手浴・爪切りの実際 1)手浴の手順 2)手浴に適したポジショニング 3)保温と配慮 4)爪切り (1)爪切りの援助の適応と禁忌 (2)爪の切り方 口腔ケア 1)口腔ケアの手順 2)口腔ケアに適したポジショニング 3)ブラッシングの方法 4)含嗽の介助	演習	テキスト①②資料
14	臥床患者の陰部洗浄の実際 1)陰部洗浄の手順 2)陰部洗浄に適したポジショニング 3)保温と羞恥心への配慮	演習 ピアティーチング	テキスト①②資料
15	褥瘡の援助に必要な基礎知識と援助の実際 1)褥瘡の目的と効果 2)褥瘡の種類 3)褥瘡の適応と禁忌 4)援助の実際	講義 演習(技術)	テキスト①②資料
16	筆記試験(45 分)	試験(筆記)	

受講上の注意 ○技術の習得に向けて各自で練習を行う。 ○ピアティーチングは、2年生とともに演習を行う。 ○看護機能形態学、基礎看護技術論、日常生活援助技術Ⅰの学習を活用する	評価方法 技術試験 筆記試験
使用するテキスト ①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ②看護がみえる 1 基礎看護技術 メディックメディア 参考文献 ①系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 ②看護形態機能学 第4版 日本看護協会出版会 ③口から食べる幸せをサポートする包括的スキル 医学書院	